

# 信州教師塾B 第3回 「作文力」

～「新聞」を生かして伝える文章を書きましょう～



山寄 文智 様

12月19日（月）に「信州教師塾B」3回目の研修会が、上伊那教育会館講堂で行われました。今年度最終となる講座には26名の受講者が集いました。

今回は、出来事や情報を整理し、文章で表現する「作文力」をテーマに、山寄 文智様（信濃毎日新聞読者センター次長）を指導者にお迎えしました。

はじめに、受講者は、受講した理由や講座への希望を書きました。その後、①先生が作成す

る文章と新聞の共通点②文章を分かりやすくするための注意点③「新聞の伝える工夫」④記事の文章の構成⑤本講座を共有する報告文を書く⑥新聞を活用するという流れで講座が進みました。まず、先生が作成する文章も新聞も伝える文章であるという共通点を教えていただきました。次に「一つの文章で伝えることは一つにする」「一文を短くする」「受け身表現を多用しない」など、文章を分かりやすくするポイントを教えていただきました。さらに実際に新聞から「見出し」「リード」「記事」という構成を確認し、「伝えたいことから、5W1Hを意識して書く」というポイントを学びました。その後、実際に本講座を学校の仲間と共有するために報告文を書くという演習を行いました。紙にペンを走らせる音だけが響くような心地よい学びの空間の中で、受講者は一文や構成を意識して、それぞれの報告文を書き上げていました。

## <参加者の報告文>

私は19日に、教育会館で「信州教師塾B作文力講座」に参加した。相手に伝える文章を書くために、この研修会に参加した。1文を短くする、5W1Hを意識する等のポイントを記者から学ぶことができた。（以下略）

最後に山寄様から「知らなかったことを知ることで、自分の考えが増える。豊かになる。」「知ることで、その人だからその考え、言葉が生まれる。」というお話があり、学び続ける意味を教えてくださいました。受講者からは「今日学んだことを明日からの学級通信や資料などの作成に活かしたい」という感想が多く寄せられました。

## わかりやすい文章の注意点

### ③ 受け身表現を多用しない

先月、開催された新聞コンクールで、優秀賞に選ばれた佐藤さんに全校集会で校長先生からお祝いの言葉が贈られました。

主体を明確にする ↓

佐藤さんは先月、信濃毎日新聞社の新聞コンクールで、優秀賞に選ばれました。校長先生は全校集会で、佐藤さんにお祝いの言葉を贈りました。

## （作業例） リードを書く

(a) 新聞の工夫や記事構成を知り、伝わりやすい文章のヒントがわかった。

5W1H ↓

(b) 私は12月19日、教育会で「教師塾B作文力講座」を受講した。学級通信や書類をもっとわかりやすくしようと、記者から新聞の工夫を聞いた。記事の構成を知り、文章を書いてみることで伝わりやすい文章のヒントがわかった。

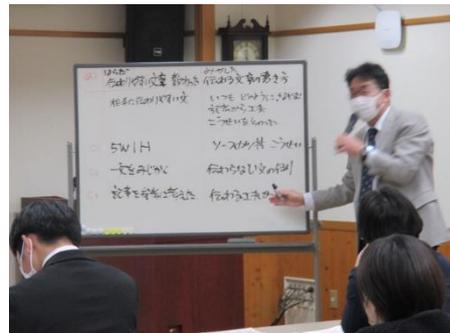


## 《 受講者の感想と研修の様子 》

普段の自分は割と分かりにくい文をよく使っていたなと思った。一文の量や5W1H等の大切さを実感する良い機会となった。今後の学級通信の作成などに早速活かしていきたい。

私の書く文章は、改めて長かったかなと感じた。読み手に正確に伝わるように「一文を短くする」ことを大切にしたい。文章の構成は、見出し、リード分、本文で徐々に詳細になっていく「逆三角形」が参考になった。相手に伝えたいことを明確にし、この構成を考えながら、文章を作成していく。「知ることで、その人の考えや言葉が生まれる」という言葉が印象に残った。新聞を活用し、今後の文章で自分の言葉を伝えていきたい。

伝わりやすい文章の構成、伝えやすい工夫があること、5W1H、文を短く50字程度、読者の視点に立つことを意識してみると、以前よりも文を考える時間は長くなったが、書きやすくすっきりまとめられるようになった。学んだ内容は同じでも作者が変われば文が変わり、伝わり方も変わることを学び、文章は奥が深く面白いと感じた。



## 《終わりに》

2年目となる本研修会（信濃教育会共催）へ、多くの先生方にご参加いただきありがとうございます。毎回、受講生の皆様から前向きになる嬉しい感想をたくさんお寄せいただきましたことも企画・運営側の励みになりました。

次年度も3回の開催が予定されています。是非、多くの先生方にご参加いただけますようお願い申し上げます。